

あとがき

筆者と地理学との出会いは、一般的なケースからすればかなり遅まきなものであった。というのも、大阪市立大学の学部ではフランス文学を専攻し、いったん社会に出て4年の年月を重ねた後に大学に戻ったわけだから。新たな出発に当たって選んだ道が地理学であった。それには、村松繁樹先生の導きが大きかった。進路相談に訪れた筆者に先生は大学院への進学を勧められた。その代わり、学部の授業もしっかりとるようということであった。そのことが、さらにその後の筆者の研究進路を左右することになった。入学した昭和41年の秋には、村松先生直々の指導の下に実地調査が行われることになり、当然筆者も参加することになった。その調査先が散村地帯としてつとに知られる富山県の砺波であった。この調査には先輩の杉本尚次氏も参加され、それを機に今日に至るまで親しくして頂いている。また、この調査中に地元富山地理学界の主だった人たちが夜分に宿舎に集まって、村松先生を囲んで散村談義に花を咲かせているのを傍らで拝聴したことを覚えている。その時に集まれたメンバーとしては北林吉弘、新藤正夫、須山盛彰の各氏が記憶に残っている。新藤氏には今もお世話になっている。

この調査を契機に、砺波の地に惹かれた筆者は引き続き砺波調査を行い、その成果の一部は「散居集落社会の変容—鷹栖を事例として—」と題して修士論文として提出した。この論文をベースにした故宮井隆先輩との共著論文は、村松繁樹先生還暦記念論文集『日本の都市と村落』（ミネルヴァ書房、1969）に収録して頂いた。砺波調査は、関西大学に就任後も中断されることなく続けられ、大学院時代から数えれば足掛け20年に及んだ。その間にものした研究成果が本書の第Ⅱ部を構成している。砺波では実に多くの人たち、そして各機関のお世話になった。砺波調査の中心は鷹栖であった。鷹栖では、何よりも郷土史家の中明宗平さんに、そして氏亡き後にご家族の皆さんに大変お世話になった。調査の度にご自宅に泊めて頂き、調査の足にと自転車を貸して頂くなど大変助かったが、今にして思えば大変厚かましいことであった。しかし、何よりも中明さんには、その労作『鷹栖村史』をわれわれに残して頂いたことを感謝しなければならない。存命中も、同書の引用・利用を快く許して頂き、また指導を受けることもできたことは有り難かった。中明さんのご家族とはその後もご好誼を頂いている。その他にも村中源太郎氏、上田庄一氏、瘡師孫太郎氏などにお世話になった。

民俗学者の佐伯安一氏にも砺波の近世資料について色々と教えて頂き、また氏

の研究成果も大いに参考にさせていただいた。佐伯さん宅にも泊めて頂いたことが懐かしく思い出される。その他にも福野、井波、井口、福岡の各地で個人的に色々とお世話になった。また、鷹栖口用土地改良区をはじめとする多くの機関、および砺波地方の市町村役場と職員の皆さんにいろいろとご教示頂いた。

砺波は筆者の地理学人生にとって揺りかごの地であり、若い情熱を注いだ土地でもある。砺波に来るとほっとするのが実感である。初心に戻ることができる場所でもある。若い頃、学問の方向性に迷った時には砺波へと出向いたものである。その砺波研究の成果を遅まきながら本書に盛ることができたのは幸いである。

今一つのフィールドは山村地域である。この選択には、筆者が山好きであったことが影響したことは確かである。その成果は、第Ⅲ部に収めた。調査対象として選んだのは吉野山地で、過疎問題への関心から野迫川村に白羽の矢を立てた。調査は1970年代後半に行われたが、ここでも、北俣の吉野ご夫妻、弓手原の中上栄一氏をはじめ多くの方々のお世話になった。野迫川調査で忘れられないのは、大雪の中、調査を早めに切り上げて除雪車の後を追うように帰路につき、平素の2倍以上の時間をかけてやっと高野山にたどり着いたことがあった。後で分かったことだが、筆者の30分後に同じく野迫川を発ち五条に帰宅しようとした中学校の若い先生が、雪の中立ち往生して凍死されたという痛ましい事故があった。山村調査にはそうした危険が付きまといやすいことは確かである。

四国山地での隠居制調査においても、ひやひやすることはあった。一方で、素晴らしい環境の下で仕事ができしたのは、研究者冥利に尽きる。四国山地調査は、主として別居隠居制を色濃く残す東祖谷山村と西祖谷山村で実施した。吉野川の上流、祖谷川が刻むV字谷の谷壁に張り付いた家々を訪ねての聞き取り調査は辛いけれども、楽しいことも多かった。ここでは、心に残っている言葉が一つある。それは、ある村の村長さんに村の改善策についてうかがった折りに、「95パーセントは経常的な費用で消えていく村予算の中で、何ができますか」と返され、なんとも返事に窮したことがあった。山の村の財政状況は今も厳しい、いやますます厳しいことは確かである。そうした状況に対して、研究者として何ほどのお手伝いもできなかったことに対して忸怩たる思いが強い。ここで在り来りの反省の弁を述べても詮無いことと思う。今は、そのことを深く心に刻んでおくということだけしか言えない。この四国調査でも、東祖谷山村の双郷友太郎氏、西秀俊氏をはじめ、多くの人びとのお世話になった。また、関西大学院生の井出優広君にも郷土ということで調査を手伝ってもらった。

筆者の関心は、山とは対照的な都市近郊社会にも向けられた。これには、筆者がまさにそうした地域の一角に住まい、そこを職場としてきたこともあるが、やはり二つのきっかけがあったことは確かである。その一つは、元同僚の故青木伸好さんの誘いを受けて、平岡昭利・柿原昇・大石幸夫君らとともに岸和田調査を行ったことである。ここでは、都市化に対する村落の側の対応に視点をあてた調査を泊まりがけで行い、時に熱い議論を交わしたことが思い出される。今一つの契機は、当時経済学部属しておられた小杉毅教授（現名誉教授）からのお誘いで関西大学の経済・政治研究所の大阪問題研究班の研究員に加えて頂き、大阪大都市圏研究に手を染めることができたことである。研究所では同じ研究班の佐藤博、小杉毅、上田達三、和田安彦の各先生方から多くの教示を受けた。その後も地域経済論研究班に加わり、引き続き大阪大都市圏の“周辺”地域の研究を行うとともに、熊本での本田技研のオートバイ工場進出の影響について調査できた。この熊本調査では、同じく研究班に加わってもらっていた中島茂君に手伝ってもらった。大阪大都市圏では、筆者が住んでいる北大阪地域の箕面市を中心に、周辺の豊中市、吹田市、豊能町、能勢町も調査対象に加え、たくさんの勉強をさせてもらった。そして、お名前は省くが、ここでも実に多くの人たち、および多くの機関のお世話になった。

なお、本書の刊行に当たっては、同僚の高橋誠一・野間晴雄両氏には出版の推挽を頂いた。また、教卓を挟んでともに勉強した大槻恵美・矢島巖・水田憲志・吉田雄介・水谷彰伸の諸君には原稿のチェックをお願いした。記して心よりお礼を申し上げたい。

こうして、振り返ってみると、筆者の研究は、その土地土地の人たちの力添えがあつてのこと、それなくしては成り立たなかつたものであることがしみじみと分かる。ここでお名前を挙げた方々以外にも数え切れないほどの人たち・機関のお世話になっている。それに対して、直接的にはなんらお返しすることはできなかった。そのことに対する気持ちは先に記したとおりである。ただ、本書の公刊によって、江湖になんらかの波紋を拓けることができればと願っていることを付け加えておきたい

最後になったが、本書を、調査・研究にお力添えを頂いた皆さんに捧げたい。

平成20年2月

橋本征治

初出一覧

- 第1章：「社会」の地理学的研究の系譜—フランスの場合—、『原弘二郎先生古稀記念 東西文化史論叢』所収，同朋舎，1973，199-224。
- 第2章：ブリュースの人文地理学体系と方法—ブラーシュとの比較による批判と展望—，史泉，43，1971，1-25。
- 第3章：散居村における社会構造の地理学的研究—砺波における事例—，人文地理，21-6，1969，1-28。
- 第4章：近世の砺波地方における村落間にわたる水利組織について，地理学評論，47-12，1974，761-776。
- 第5章：近世の礪波地方における神社の広域祭祀圏について，歴史地理学会会報，90，1977，1-12。
- 第6章：近世砺波地方のマチ・ムラ地域について，人文地理，26-5，1974，30-57。
- 第7章：近世後期における在村（ムラ）商人の分布的考察—加賀藩砺波地方を事例に—，歴史地理学134，1986，1-16。
- 第8章：経済的・社会的変容と居住様式の変化—散居村における事例—（第I部），史泉，39，1969，1-20。
- 第9章：経済的・社会的変容と居住様式の変化—散居村における事例—（第II部），史泉，40，1970，1-23。
- 第10章：在来世帯の挙家離村実態—奈良県吉野郡野迫川村—，関西大学文学論集 25-1・2・3・4 合併号，1975，449-475。
- 第11章：部落有林の分解と残存部落有林の機能よりみた地域性—奈良県野迫川村—，人文地理，29-1，1977，26-53。
- 第12章：家制度と村落社会—四国山地における隠居制山村の場合—，歴史地理学紀要，20，1978，269-292。
- 第13章：地域研究としての大都市圏研究—「文化」と「複雑性」の視点からの試論—，大阪市立大学地理学教室編：『アジアと大阪』所収，古今書院，1996，124-141。
- 第14章：周辺地域からみた大阪大都市圏，大阪問題研究班編『国際経済化の下における大阪大都市圏経済の現状と課題』（研究双書：第75冊）所収，関西大学経済・政治研究所，1991，32-79。
- 第15章：都市化に対応する農村地域の分析—岸和田における事例—」の内，第3章：都市化と村落社会，史泉，53，1979，26-49。
論文の執筆者：青木伸好・橋本征治・大石幸夫・平岡昭利・柿原昇。
その内で当該章の執筆者：橋本征治。
- 第16章：住宅都市化による地域経済の変容—大阪府箕面市を事例に—，地域経済論研究班編『地域経済論の研究』（研究双書：第61冊）所収，関西大学経済・政治研究所，1986，181-244。
- 第17章：企業誘致にともなう地域経済の変容—本田技研工業（株）の熊本県大津町への進出を事例に—，地域経済論研究班編『九州地方における地域経済』（調査と資料：第58号）所収，関西大学経済・政治研究所，1985，296-356。

索引

〔あ行〕

藍 138
アウターエリア 317, 318
頭振 60, 66-67, 137-138, 141-142, 158, 163
集まり住む 18
阿倍野・天王寺 331
アンサンプル 9, 12, 35-37, 39
飯塚浩二 30, 43-44, 50-51
家 195, 222, 277-295
家々の分立主義 81-82
家代表権 278, 283-285, 287, 292
家持下人 59-60, 66
井肝煎 91, 97-100, 102-106
一次的心理 44
——作用 16, 43
——要素 15, 42-44, 46, 52
一次的分散 19, 54
一般地理学 10, 13, 31, 39, 47
一般的心理要素 15, 45-46
井波 118-121, 128-130, 132-143, 146-149, 152, 159, 170-171
——絹業 132-133, 135
——蚕種業 133, 135
今石動 113-114, 127-131, 143-145, 148-156, 162, 169-170, 172
——愛宕神社 113-115
祖谷 279-282, 284, 286, 287, 289, 294
——区長 286-287
——山林 280-281
——屋根葺き講 286
——林業 281
入会権 244, 264-268, 273-275, 286
入会制度 260, 263-268, 273
入会林野 247, 250, 253, 259-269, 274-275, 289-291
——近代化事業 260, 268-269, 271
——近代化法 269
隠居 277-295

——実態 282-283
——制 277-278, 293-294
——分家 278-279
ヴァロー 30
ヴィダル・ド・ラ・ブラーシュ 7-11, 13, 17
-19, 22, 25-27, 29-41, 48-51
ウェーバー 47
雨水流出係数 362
梅田 323-325, 327-329, 331
運動の原理 32
営業形態 171-172
永小作権 82, 192
江肝煎 71, 73, 97
江浚え組織 71-73, 75, 84
越中木綿布業 134
遠周辺地帯 317-323, 329-332, 334-336, 339, 341-345, 347-351
大阪大都市圏 312, 315-318, 323, 325, 331, 345, 350, 351, 373, 385
大津町 421-426, 478-481
苧紮 129-130, 135-136, 139, 150, 155, 158, 164-165, 169-170, 174, 176
御蔵 112, 144-147, 154, 164, 177
——入れ圏 145-146
長百姓 61-62, 66, 83
苧布織 129-131
小矢部川 90-94, 105-106, 111-115, 126-127, 131, 136-138, 150-151, 170, 177
——水運 164

〔か行〕

カイコ地域 132-134
改作奉行 62, 91, 176
街村 201, 207
街村化 67
街村部 58, 65, 67-68, 70, 72, 182, 191, 202, 205, 207-209
開拓前線 66, 83, 295
加賀藩随一の大村 57, 180

懸作 142-143, 156, 177
河川 87-91, 107
——灌溉 56, 76, 81, 91, 358
——溜池混在灌溉 358
過疎化 225, 241-242, 247, 269, 271-272
——医療問題 243
——教育問題 242-243
家族 8, 219, 222, 237-240, 244-245, 277-278,
288-289, 293-295, 371-372,
——共同体 277
過疎地域 223-224, 239, 242, 245, 272, 350
金沢 131, 149, 151, 153-156, 164, 170, 175, 177
可能論的見地 13
家父長権 277-278
川波地区 249-250, 253, 255
干害・水害地域 93-96
環境 8, 10-18, 21-24, 32, 35-37, 39-40, 42-45,
47-49
——可能論 40
——決定論 8, 10, 13, 17
——総体 11-12, 22, 55
官行造林 227, 229, 261, 271
関係の複雑性の落差 302
慣行小作権 56, 60, 84, 196, 214
紀伊山地 223-224
生糸業 132-135
企業誘致 421-481
——影響 478-481
技術 14, 21-25, 28
——総体 22-25
岸和田市 334-335, 354, 362-363, 372
基礎社会 308-310
——集団 309
基礎地域 23, 83-84
基礎的
——事象 13, 32-35, 45-47, 52
——集団 22
——人文地理学 32-35
機能神 109, 118, 122-123
基本的欲求 15, 45-46
木町水運 150
肝煎 62-64, 71, 73, 78, 91, 97-100, 102-106,
120, 156, 159
旧中村川 57, 88
旧野尻岩屋口用水 100

共住 11
共同主観 307
共同体的規制 20, 23, 73, 75, 81, 261, 365
共有林野 222, 247-256, 258-274
——利用 259-264
——分解 222, 254, 268-269
共労 12, 35, 265-267, 277
挙家
——離村 223-246, 265-272, 281, 294
——離村先 238-239
——離村先での職種 237-238
——離村世帯の性格 235-237, 244
——離村動機 233-235, 244
——離村類型 232-233
距離原理 327, 331, 349, 350
切高 59, 60
——仕法 135, 158
近畿型 223
——挙家離村 245
近畿圏基本整備計画 316, 318, 342, 351
近郊緑地保全区域 319, 342
近周辺地帯 317-318, 320, 323-324, 331, 334-
336, 345-349
近世砺波地方の商圈構造 172-174
区 70, 80
草分けの家々 66
組 63-64, 79
クミ 63, 65, 67, 69-71, 75, 79-80
組合頭 62-63, 71
久米田池 355, 357, 359, 361-362
——郷 356, 361
区有林 247, 251, 265, 268, 271
クラッセン 315
蔵入れ圏 144-145, 147-149, 151
蔵町 144, 147, 154
蔵宿 112, 144-148, 151, 154, 156, 164, 177
——入れ圏 144-147
クリスタラー的重層構造 173-175
景観 7, 12-14, 20-24, 27, 29, 32, 34-36, 38, 51,
68
——概念 34, 48, 312
——論 34-35
景観論的体系論 34
郊外(周辺) 301
郊外化 301, 303, 306, 315, 316, 318

合口の推進 92-94
 合口用水型 101, 103-106
 高次生活空間 80-81
 高次中心 125, 132, 135, 141, 149, 153, 165, 172
 公団分収造林 227, 258-262, 265, 268, 271
 ——事業 260-262, 265
 耕地囲繞制 56, 60, 67, 74-77, 81-85, 106, 191, 211, 219
 耕地への接近 19
 行動地理学 306, 308, 310
 向都離村 182, 200
 購買活動 320, 323, 326, 329, 331, 343, 345-347, 349
 公有林野整理開発政策 251
 郡用水打銀 91-93, 98-99, 105
 五ヶ村の宮 117
 古代の一次的分散 19
 古典派 21
 「個」の確立 195
 コミュニティ 300, 305, 308-311, 313, 341-342, 351, 415
 混在耕地制 73-76, 106
 混住化 301, 306, 308, 313, 335
 混住社会化 316, 335, 337, 347, 351

〔さ行〕

再帰性の原理 304
 在村地主 60
 在村商人 130-131, 133, 135, 140, 143, 150, 157-158, 160, 174-176
 最多額買物出向先 324-325, 331
 再都市化 315
 在来世帯 225, 228-229, 232, 236, 244, 270
 散居 20, 66, 68, 81, 83, 107, 191, 197, 199, 207, 209-211, 219
 ——集落 205, 218
 散居制 56, 65, 68, 81-82, 84, 209-211, 220
 ——維持 209-210
 ——動向 211
 ——評価 209-211
 散村 54-107, 179-220
 シイタケ栽培 259, 263-264, 270
 時間地理学 301, 306, 308
 仕組み 21, 44, 46, 48, 55, 189, 265-266, 277,

283, 303-304, 307, 310, 312
 仕事 35
 地蔵組 79, 193
 自市町村内通勤率 320-321, 323
 自市内出向 324
 自然
 ——環境決定論 8, 10, 17
 ——地域 14, 25, 37, 126
 ——地理 29, 51
 自然的地域 10, 37
 自治会 265, 337-339, 341-342, 346-348, 351, 357
 級長戸辺神社 118, 120, 121
 シマ 61, 63, 65-71, 75-76, 78-79
 島 61-72, 75-79
 島状微高地 61
 市民経済 298, 411-416
 社会 7-29
 ——型 8, 14
 ——景観 7
 ——経済的研究 7
 ——形態学 16-17
 ——形態学派 17, 21, 25
 ——集団 7, 11, 17, 19-20, 22, 36, 45-46, 302, 307-309
 ——地誌 7, 24
 ——地理学 6-7, 13-16, 24, 26, 31, 39, 48, 50, 84-85, 300, 304, 307-308, 310-312
 社会的
 ——環境 10-12, 15-16, 40, 42-44, 48
 ——諸事実 11, 22-23
 ——存在としての人間 44, 47, 307
 ——地域型 14
 社会と個人 48, 307-308
 社会の
 ——地理学的研究 7, 12, 16, 25
 ——基体 17, 21, 22
 社会問題の解決 9
 ジュイアール 13, 37
 自由選択の限界 15, 42, 44, 52
 重層型 335-340, 347
 住宅都市 373-419
 集団 11
 集団的はずみ 47, 52
 集団累積体 309

- “周辺” 298, 301, 305-306, 315-335, 345-353, 373, 375
 ——化 306
 ——地域 310, 312-313, 317, 349, 427, 430, 433
 ——地域中心 324-331
 ——文化 305
 周辺地帯 317-321, 323-324, 326, 329-336, 339, 341-351
 集落 18-21, 23, 225-229, 232, 235, 240, 243-245, 254-260, 280-283, 291, 294, 335-338, 341, 353-357, 360-361, 369, 372, 379, 381
 ——地理学 19
 ——地理学的研究 18-21
 私有林 227-229, 247-250, 252-256, 258-260, 263, 270-272, 280-281, 286, 290-291
 庄川 56-58, 71, 83, 87-92, 94, 96-100, 103-105, 107, 117-118, 121-122, 124, 126-127, 137-138, 140, 169, 179, 294
 ——主用水 96-97
 ——扇状地 56, 126-127
 小教区 9, 16
 小シマ 61, 65-68, 70, 78-79
 ——複合 67
 ——複合空間 61, 67-68
 小村 19, 66
 商売 133, 138-141, 151, 155-156, 158, 160, 164, 171-172, 176-177
 ——産地型 166-170
 ——普及型 166-170
 ——マチに多く分布 170-175
 ——ムラに多く分布 168-170, 175
 城端 112, 118-120, 124-125, 128-129, 132-134, 137-139, 145, 147-149, 152-156, 158, 162, 170
 ——絹業 132-133, 138
 ——商工業者出身地圏 147-149
 諸商賣書上申帳 149, 159-160, 164, 171, 174, 177
 小用水型 101-103, 106, 127
 自立農民の形成 19
 ジンメルマン 33-34, 36, 49
 心齋橋 324-325, 327, 331
 新住民 305, 316, 335-339, 343, 347-348, 351, 363-372, 409
 人文化 12, 14, 32, 39-40
 人文化された自然 39
 人文主義地理学 308, 310
 人文地域 14, 23
 人文地理学 7, 13, 17-18, 26, 29-35, 38-40, 42, 48-50
 新用水 88, 90, 92, 98, 101-104, 106, 122, 127
 心理的相対主義 30, 43
 心理的要素 6, 13, 15, 31, 35, 39, 41-49, 51-52
 ——の介在 13, 15, 36, 38, 41, 44-45, 47-48
 森林法 251-252, 260
 人類
 ——生態学 24-26, 28
 ——の意志 13, 40
 ——の社会性 7, 17-19, 21, 24, 44-46, 49, 52
 ——の主体性 17-18, 21, 26
 ——の生態学 10-11
 ——の創意性 10, 25-26
 ——の歴史性 11, 32, 36, 41
 水神 104, 119, 121-123
 水津一朗 83-85, 107, 154
 水田単作地帯 81, 180
 水利・耕作規制 81, 95-96, 106
 水利規制 76, 95-96
 水利共同体 73-77, 359
 水利区 71
 水利権 73, 75, 77, 84, 98-100, 103-107, 359-360, 363-364
 水利組織 14, 61, 68, 71, 76, 82, 87, 94-96, 99-100, 104, 106, 359-360, 363, 365, 370
 ——空間構造 101-105
 杉木新 80, 128, 130, 134, 145-154, 156
 菅草・菅笠 131, 170
 生活圏モデル 345-350
 生活装備 12, 36
 生活様式 10, 12-15, 18-21, 23-27, 33, 35-37, 45, 51, 215, 218, 227, 247, 259, 305-306, 313
 生活様式論の更新 24
 生産隠居 278, 283
 政治的集団 22
 生態学的連鎖 12, 84
 生物生態学的方法 10, 11, 39
 迫地区 250, 253-255, 258-261, 263, 265-267, 270-271
 先進林業地 223
 選択の可能性 15, 42, 44, 52

千里中央 319, 324, 326-329, 346, 379, 408-409, 417
 相観 12, 35-36, 39
 相関の原理 32, 38
 “総体” 22-25, 100, 106, 303-307, 309-310
 ——性 299
 惣代 62-63, 71, 95, 97-98, 367-368, 372
 装置 303-304, 307, 310, 312
 惣領相続制 59, 66
 村外所有 225, 248-249, 270, 274
 村落 19, 71-87, 95-109, 115-120, 135-143, 172-177, 222, 229, 245, 250-267, 277-294, 337-339, 347-348, 353, 359-361, 363-371
 村落会 360, 367
 村落共同体 20, 71, 73, 85, 294
 村落社会 55, 85, 125, 157, 195, 264, 277, 283, 293, 313, 353-354, 365, 370-372, 447, 479
 村落連合体 71, 84

〔た 行〕

第1社会空間 60-68, 75, 81-82, 84
 第2社会空間 78, 84
 第3社会空間 78, 84
 大規模手作経営 59-61, 66
 大都市圏 238-239, 245, 299-306, 312, 315-318, 322-325, 330-343, 345, 350-352, 373, 377-378, 417
 第二級地域 23
 大用水型 101-103, 106, 127
 対話論理的 304
 高岡 129, 131, 134-135, 143, 149-155, 164, 169-170, 183, 193, 200
 ——木綿業 134, 140
 鷹栖 55-85, 179-220
 ——営農研究会 193, 195
 ——街村部 191, 207-209
 ——家屋形態 212-218
 ——機械化 186-189
 ——居住分布 199-211
 ——居住密度 207-209
 ——居住様式 199-220
 ——雇用労働力 188
 ——社会的紐帯の弛緩 193-195
 ——就業構造 183-186
 ——住居の近代化 212-218

——商工業の展開 182
 ——人口供給地 180
 ——人口の変化 180-183
 ——水利組織 68-77
 ——生活圏の拡大 193-195
 ——村内移住 206-207
 ——通婚圏 194-195
 ——転入・転出世帯(戸数) 199-202
 ——東・西の区分 78, 80
 ——土地所有の変化 189-191
 ——農業 188
 ——肥料 187-188
 ——分家様式の変化 202-205
 ——ユイ 189
 鷹栖口用水 57, 68, 71, 73, 76, 83-85, 88-90, 93, 98-99, 102-104, 107
 高橋 誠 313
 脱農業 60, 192, 195
 溜池 91, 357-360, 363-364, 372
 ——灌溉 76, 354, 358
 単純社会 8
 地域経済 14-15, 25, 33-37, 272, 298, 374, 382, 386, 400-401, 418, 421, 430, 434, 478-480
 地域研究 299-302, 305, 310
 地域社会 265-272, 307-310, 312-314, 335-342, 345-348, 352-353, 365-372, 429-430, 473-480
 地域的な社会型 14
 地誌 7, 13, 21, 23-25, 30, 33, 39, 50, 273, 299-303, 305, 311
 地租改正 60, 250
 地付き民 305, 335, 339, 365-369, 371-372
 地的統一 6, 13, 17, 25, 31-32, 35-36, 38-40
 地的統一性 21
 地的統一論 38-39
 注意の方向 42, 44, 47, 52
 中周辺地帯 317-321, 323, 326, 331-336, 345, 347-350
 町内会 309, 313, 351, 356-361, 363-370, 372
 地理的主体性 21, 26, 31, 47
 通勤流動 320-323, 345-349
 適疎社会 245
 デュルケーム 9, 16-17, 26, 32
 田地割制 60, 66, 82, 84
 戸出布業 140

同族集団 66-67, 79, 366
 同族神 67, 79
 同族分岐 61, 65, 67
 ドゥマンジュオン 18-20, 25, 27, 54, 82
 都市化 273, 298, 303-313, 315-347, 351-371,
 373-419, 430
 ——過程 306, 377-382
 ——水利障害 363
 ——対応 398-403
 都市圏 298-312, 315-325, 330-335, 342-352,
 373, 377-379, 385-386, 417
 ——研究 300, 302, 310-315, 318, 350
 ——の地域研究 299-302
 都市コミュニケーション 9
 都市精神 310
 都市農業 386-403, 419
 都市文化 192, 196, 300, 302-305
 十津川・北山林業地帯 248-249, 273
 十津川流域 223, 227
 砺波 55-57, 87-91, 125-127, 179-180
 ——散村地域 54, 57
 ——水利 87-107
 ——扇状地 87-91, 179-180
 ——村落間にわたる水利 87-107
 ——平野 179-180
 ——マチの成立 128
 砺波郡 125-127, 159-160
 ——諸営業 164-172
 ——高辻帳 87
 ——村々散小物成銀等暨諸商賣之品相しらへ書
 上申帳 139-141, 150, 158-172
 砺波市 183
 ——土地所有の変化 189-191
 砺波地方 55-57, 87-91, 125-127, 160, 179-180
 十村 61-62, 91
 豊中市 324-326, 329-331, 344-346

〔な行〕

中明宗平 83
 中飛ばし 349-350
 ——現象 331
 ナルディ 9
 なんば・日本橋 323-324, 331
 南砺 95, 106, 118-121, 129, 132, 139, 142, 144,
 151-154

——地域 138-140
 ニーズ 15, 26, 42-43, 45-47
 二元的 35
 二元論 13, 35-36, 38-39, 41, 47
 西祖谷山村 279, 281-282, 286, 294
 二次的心理要素 15, 42-43, 46
 二次的心理連鎖 46, 52
 二次の分散 19, 54
 二分論 34
 二万石用水 71, 83, 100, 117
 年齢階梯の集団 367-370
 農隙所作村々寄帳 131, 136, 154
 農村 22
 農地改革 60, 84, 185, 187, 189, 192, 196, 203,
 260
 農民層分解 136, 139, 141-144, 149, 151, 163-
 164, 169, 174-176, 274
 野川地区 227, 249-250, 255, 259
 野尻岩屋口用水 88, 90, 92-93, 96, 100, 103-
 104, 106, 122
 野迫川村 224-228, 234, 238-245, 248-250, 256,
 261, 263, 269, 273-275
 ——概観 225-229
 ——区財政基盤 265-266
 ——経済的基盤 225-229
 ——人工林 257
 ——農業 225-227
 ——林業 227
 ——林業経営 256-259
 能勢町 319-321, 329-331, 336, 339-342, 344-
 347, 350-352
 能美組巨細長 138-139

〔は行〕

パール 44, 307
 白山比咩能神社 117
 場所の科学 17, 24-25
 走り人 97, 142-144, 163
 場の文化 310
 早場米地帯 180
 反都市化 303, 315-352
 控え目な人文地理学 6, 17
 比較地理学 55, 219
 東祖谷山村 279-281, 284, 286
 非同心的 350

批判的地理学 38
 開かれたシステム 304
 ヒラリー 309, 313
 広がり 6
 ブール 19, 29
 フェューブル 9-10, 16-18, 21, 25-26, 40, 51
 不完全生活様式 24
 不吹堂 118-121
 普及型 168-169
 福岡地区 142-143
 複眼的・統合的思考 299
 複合社会 8
 複合小シマ 78
 複合水利空間 70, 76
 複雑性 298-299, 302-304, 306-307, 309, 311-312
 福町神明宮 113-115
 福光 111-113, 122-123, 129-135, 137, 145-156, 159, 169-170, 176-177
 ——宇佐八幡宮 111-114
 ——曾代糸 133
 藤井 正 302
 布判抑制 130
 扶養・監督の義務 278, 283, 287
 ブリュース 6, 13-16, 18, 25, 29-52, 298
 プロレタリアートの離村 270
 文化 12-14, 19-21, 23-24, 32, 35, 39, 40, 42, 44, 51-52, 299, 302-307, 310, 312
 ——地理学 310
 ——複合体 23
 分家 59-60, 66-68, 79, 199-207, 214, 219, 264-267, 278-279, 294, 357, 368, 372
 ——分派 65, 203, 205
 分高 59, 155, 217
 ——別家 59, 66-67
 ——別家制 66
 分立型 335, 337-338, 347-348
 併合用水型 101, 104
 別居隠居 222, 278-279, 283-293
 ——家代表権 284-287
 ——隠居屋 286
 ——オモ 281-287
 ——経営地 288-292
 ——扶養・監督の義務 287-288
 ——別経営 289-292

——リーダーシップ 287-288
 ベルグソン 42, 44, 47, 52
 ベルタランフィ 304, 312
 包摂型 335, 347
 北砺 141-142, 144, 149-150, 153-154
 北陸型気候 180
 北陸道 129, 150
 北海道移住 67, 200, 202-203, 206-207
 圃場整備 58, 85, 187, 209-210, 218-220
 本戸 264-265, 274
 本田技研工業熊本製作所 421, 426, 430, 432-434, 439, 444, 446-447, 466, 473, 475, 481
 ——産業構造への影響 442-447
 ——商業への影響 466-473
 ——人口構造への影響 439-441
 ——地域経済への影響 430-472
 ——町民アンケート調査 475-478
 ——農業への影響 447-466
 ——進出 426-430
 ——町財政への影響 473-475
 ——労働市場への影響 430-439
 本百姓 59, 60, 135

〔ま 行〕

マチ 87, 109, 111, 113-115, 122-125, 128-135, 137-154, 156-164, 166-177
 マチ・ムラ地域 125, 144, 151-154, 156, 163
 マチ型商売 171
 マチの惣社 109-115, 122-123
 松尾俊郎 30, 50
 松川除 57, 89, 127, 179
 松田 信 7
 マニユファクチュア 133
 見多気神社 116-117
 南砺波地方 95, 132-134
 箕面市 318-320, 324, 326-331, 336-339, 341, 347-348, 352, 373-419
 ——自治会 337-339
 ——市民経済 411-419
 ——社会資本整備 414-416
 ——商業 403-409
 ——地域経済 382-411
 ——農家経済 395-397
 ——農業 385-403
 ——農業経営類型 390-395

無高層 66-67, 158
ムラ 57, 71-85, 113-118, 135-144, 151-154, 168
-175, 282-293, 346-348, 353-371
——稼業 129, 136, 138-141
——稼業の拡大 138
——商人 157-175
——地域 125, 144, 151-154, 156, 160, 163, 168
-170, 172-175
ムラ型商売 168-169
ムラゲ 261, 265
村精神 195
村松繁樹 196
ムラムラ連帯の祭祀圏 115-118
免率 96
木綿布 134-135, 138, 140, 150
モラン 8, 303-304, 306, 309, 311-312

〔や 行〕

焼畑経営 279-280, 295
山田新田用水 88, 90-91, 95, 98, 105, 107, 123
山田野新開 59
山神 121-122
山見八ヶ用水 88-92, 101-105

矢守一彦 125, 154, 176
優位用水 94, 103
融合型 335-340, 347
養蚕 112, 132-134, 138, 158
用水 68-76, 88-107, 115-117, 361-364
——才許 91
——仕方書 92-93
——惣代 71
——定書 92, 106
吉野山地 223-224, 247-248, 273
——林業地帯 248, 273
余田博道 73-74, 85

〔ら 行〕

ライトモチーフ 12, 36
ラツツェル 10, 13, 16-17, 31, 39-40
林業構造改善事業 268-269
ル・プレー 8, 14, 32
ルヴァスール 8-9
ルーマン 302
歴史的地域 14, 37, 125
歴史の地理 14-15, 25, 30, 32-38, 42, 44
劣位用水 94, 103

〔著者紹介〕

橋本 征治 (はしもと・せいじ)

- 〔略 歴〕 1938年 大阪府生まれ
1969年 大阪市立大学大学院博士課程中退
現 在 関西大学文学部教授 (文学博士)
- 〔主著・論文〕 『メラネシア—伝統と近代の相剋—』 1992年, 大明堂
『海を渡ったタロイモ—オセアニア・南西諸島の農耕文化論—』
2002年, 関西大学出版部
『『社会』の地理学的研究の系譜—フランスの場合—』『原弘二
郎先生古稀記念 東西文化史論叢』所収, 1973年, 同朋舎

ムラとマチの時空——社会と暮らしの地理——

2008年3月31日 発行

著 者 橋 本 征 治

発 行 所 関 西 大 学 出 版 部
〒564-8680 吹田市山手町3丁目3番35号
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6389-5162

印 刷 所 株 式 会 社 遊 文 舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4丁目17番31号

©2008 Seiji HASHIMOTO

Printed in Japan

ISBN 978-4-87354-459-5 C3025 落丁・乱丁はお取替えいたします